



ASHIKO TIMES NEWS 01

学校説明会 約1300名が参加

10月6日(土)及び11月10日(土)に学校説明会を行いました。2回の説明会で1300名を超える生徒・保護者の皆様にご参加いただきました。

2回の学校説明会では、校内見学と授業体験、部活動見学を実施しました。昨年を上回る多くのお申し込みをいただき、全体会は体育館で、体験授業は各教室で実施しました。

参加された保護者の方からは、「わかりやすい説明でとてもよかったです。自治会長さんもハキハキしておられて素晴らしい発表でした」、中学生からは「体験授業は明るく楽しい雰囲気できてよかった。この高校に通いたいと思いました」という感想が寄せられました。



ASHIKO TIMES NEWS 02

台湾新北市立三重高級中学と交流



10月25日(木)に、台湾より、姉妹校である新北市三重高級中学の生徒・教職員の皆さんが75名来校されました。歓迎レセプションの後、芦高生のパディと対面し、各ホームルーム教室で昼食の時間を一緒に過ごしました。

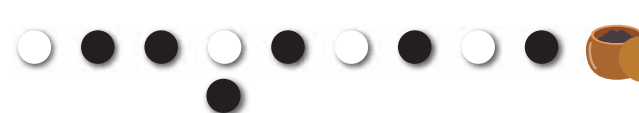
5時間目の授業に参加した後、体育館での交流会では、互いの学校紹介とパフォーマンスの披露がありました。その後、5つのグループに分かれ、部活動を見学。短い交流の時間でしたが、両校の生徒たちはすぐに打ち解け、日本語や英語を使ってコミュニケーションを図っていました。11月末の修学旅行では、2年次生314名が三重高級中学を訪問します。その時にはさらに親睦を深めていけるものと思っています。



ASHIKO TIMES NEWS 03

「日本の文化」—囲碁やっています—

「日本の文化」の授業は、弓道、茶道、華道、能・狂言、囲碁、連歌、書道など、それぞれの専門家を招き、体験を通じて伝統文化の良さを発見し、今日における意味を考える授業です。その中の囲碁では、毎年日本棋院より水戸夕香里棋士(三段)をお招きし、囲碁の入門講座を行っています。3週6時間にわたる授業で自分たちだけで囲碁ができるようになるのが目標です。また授業の中では講義もあり、体験した囲碁が日本の歴史や伝統文化にどう位置づけられるか、同じ囲碁文化をもつ中国、韓国、台湾と比較して、日本の囲碁文化にはどのような特徴があるかといった課題を考えています。



芦高
キーワード
vol.6

芦屋高校には、他校にはない独特の名前を持つ取り組みがたくさんあります。このコーナーでは、「芦高キーワード」としてそれらを紹介していきます。

自治会



「題字は書道部の作品です」

多くの中学校や高校で「生徒会」と呼んでいる組織を、芦高では「自治会」と呼んでいます。他校の生徒会と本質的には同じですが、「自治会」と称するのは、自らの手で、自治会諸行事などを運営していくからです。自治会員(=芦高生全体)が自分たちの手で運営していく。つまり「自ら治める」ので「自治会」と呼ばれているのです。

芦高には「自治・自由・創造」という教育綱領があります。「自治」が最初にくるのは、「自治」が成り立って初めて「自由・創造」が可能となるからです。文化祭・体育祭・定期戦・球技大会などの学校行事は、自治会が中心となって運営し、自由で創造的な学校生活を作り出しています。